

平成28年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和歌山高等学校
校長氏名	山本 昌之
作成日	平成29年3月8日

1 教育目標

人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成に努める。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	内外に開かれた学校作り	人間尊重の精神と基本的生活習慣の確立	学習習慣の確立と基礎学力の定着と早い段階からの新教育制度に呼応した教育指導・学力教育力の確立

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会の十分な時間確保に努める。 地域住民との交流の機会として、市高デパートの継続開催をする。 学校開放週間を行う。 ホームページの充実に努める。 中学3年生とその保護者、教職員に学校学科説明会、体験入学を行う。 防災講演等校内研修は教職員のみならずPTAや地域・近隣小中学校にも参加を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 談話室(教育相談室)を常設する。また、教育・生活相談週間を設定し、個々の生徒の実態把握をするとともに、生徒の自己理解を促す。 人権学習を全学年で特設する。 ホームルーム活動や市高デパート、体育祭、文化祭等で人間関係の構築等を行う。 登校指導を行い挨拶の励行、服装指導、遅刻指導の徹底を図る。 モラルや向上心を養う教育を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読で学習への準備態勢、基礎学力の定着を図る。 振り替え授業等の実施により授業時数の確保に努める。 3学科(総合ビジネス科、デザイン表現科、普通科)とも補習を行い、生徒の学力向上を図る。 授業内容の工夫改善を図る。 教員は研究会等スキルアップの為に研修に積極的に参加し、授業力・教育力を上げ生徒学力向上・社会力向上に繋げる。
(評価結果【C】)	<ul style="list-style-type: none"> 市高デパートの開催により、地域の方を中心に多くの方々来校し一定の成果があり地元の期待度が高い 保護者会は、1学期に2回、2学期に1回の計3回の個人懇談会を行った。 地域に向けた研修をしたが認知度が低くPR時間不足であった。 甲子園出場は準備等大変であるが、組織力の向上や、大いに本校のPRを担い広報活動の一助となる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの取組については比較的早い段階で取り組めたが、今後さらにアンテナを高めて生徒の行動等の状況を把握し学校全体として取り組む。 言葉使いの指導や服装指導については、個々の先生がいつでも指導するという体制は昨年度に比べ向上したが、まだまだ十分とはいえない。 更なる共通理解・協力を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に、補習の取組が活発になった。デザイン表現科では、進学率が高くなり、数多くの表彰者を出した。普通科では、入学時の学力に比較して多くの生徒が個々の学力を向上させた。しかし、さらなる向上を図らなければならない。 アクティブラーニングや特別授業の充実や集中講座の工夫や開設を行う必要がある。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会や種々の行事等で、さらなるPRを行う必要がある。 学校の取組の成果をメディア等に掲載し広報活動を行う為の校務組織化。 HP等の充実、ソーシャルネットワーク等の適正な利用。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃等の活動を通じて、自ら進んで活動したり、さらに明るい雰囲気を作っていく必要がある。 全職員で取り組む体制作りと意識付け、報告・連絡・相談体制の強化と連携・協働が必要である。 学校いじめ防止基本方針に基づいてさらなる取組が必要である。 礼節を重んじ、コンフォートタブルな学校を目指し、思いやり、おもてなしの精神を育てる。 老朽施設の改築・修繕・清掃二より充実した教育環境の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 他の高校の取組や進学塾の手腕等を取り入れ、さらに、指導方法の工夫改善を図らなければならない。 保護者とともに協力して行うことが必要である。 特別授業の授業配分や生徒への意識付けの説明会や集中講座の新規開設を行う。 インクルーシブ教育・ICT教育・設備の充実 学校が同じベクトルの教育イノベーションの構築・設備投資を行う働きかけを行う

3 その他の課題

・組織の一員であるという自覚をもう一度認識しなおし、学校運営に積極的に関わる意識の更なる醸成、教職員全体の共通理解の徹底 ・スリム化することも大事である。 ・校務チェック体制の強化が必要 ・成果と課題で出された意見を集約し、整理して然るべき部署で検討し実現に向ける。 ・適切な人員配置と組織運営・分掌の適正化 ・若い先生方が増えているので、学年や分掌で組織的にサポートできる体制づくり ・放課後の課外活動を充実・教育力向上と学校ブランディング化の施策を講じる。